

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称	施策I-2-1 売れる農林水産品・加工品づくり
---------	-------------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	林業課木材振興室長 大國 敏彦	電話番号	0852-22-5156
----------	-----------------	------	--------------

事務事業の名称	森林整備加速化・林業再生事業			
目的	(1) 対象	市町村・森林組合などの林業・木材産業の事業者等		
	(2) 意図	間伐及び路網整備、伐採から搬出・利用の一貫した取組による間伐材のフル活用、地域木材・木質バイオマスの利用を一体的に促進する		
事業概要	林業・木材産業を強化するため、間伐実施、作業道整備、木材生産用機械導入、木材加工施設整備など林業・木材産業の基盤整備を支援する。			

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			式・定義	作業道開設延長	目標値	399.00	488.00	
式・定義	作業道開設延長（累計）	実績値	310.00	467.00	624.00	860.00		
		達成率		117.00	127.90	149.10		%
		指標名	木材加工の施設整備数	年度	23年度	24年度	25年度	26年度
式・定義	品質向上・生産拡大のために整備した施設数（累計）	目標値		18.00	21.00	22.00		施設
		実績値	11.00	14.00	21.00	34.00		
		達成率		77.80	100.00	154.60		%

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	3,657,647	1,950,185
うち一般財源(千円)	94,474	1,196

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

H21年度からH26年度までの6年間に、間伐実施、作業道整備、木材生産用機械導入、木材加工施設整備などを推進した。

【主要メニューの実施状況（H21～H26）】
 間伐実施 9,315ha 作業道整備 860km 高性能林業機械等導入 55台 木材加工施設整備 34施設

6. 成果があったこと（改善されたこと）

林業・木材産業の事業者に対する精力的な働きかけにより、作業道や木材加工施設などの産業基盤整備が進んだ。
 特に、この春、県内2箇所の木質バイオマス発電所が稼働し、本格的な木質バイオマス利用が開始された。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
 原木増産と木材加工体制の強化は、一定程度進んだが、木を「伐って使って、植えて育てる」循環型林業を本格軌道に乗せるには、さらなる条件整備・環境整備が必要である。
- ②困っている状況が発生している「原因」
 木材価格の低迷等により、事業者が必要な施設整備に取り組みにくい状況が続いている。
- ③原因を解消するための「課題」
 森林資源の成熟、公共施設の木造化の機運の高まり、輸入木材の価格の上昇など、林業・木材産業の活性化にとってチャンスが到来している。
 この点を事業者の説明して、さらなる条件整備・環境整備に対する理解を求めめる必要がある。
 基盤整備の効果を最大限に引き出すため、原木増産を行う事業者と木材加工を行う事業者の強い連携（原木需給調整、取引協定）を促す必要がある。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

あらゆる機会を通じて、事業者と意見交換を行い、森林整備加速化・林業再生事業を活用した、将来の事業展開に不可欠な設備への先行投資を働き掛ける。

◎課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）